

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 2 月 25 日
事業所名	2371501277
事業所番号	グループホームなでしこ猪子石原 1階
記入者名	職名 ホーム長 氏名 川上園美
連絡先電話番号	052-774-6701

(様式1)

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でグループホームを認識してもらえよう働きかけを通して、入居者にとって当たり前の日常生活が送れるような援助により、『その人らしい尊厳ある生活を大切に』という理念を持っている。	○	地域からのボランティア、イベントへの参加のお誘い等を通して地域との密着を図りたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的なミーティングで理念については常に話題とし、ケアカンファレンスでは理念を念頭に置いた視点での話し合いを心がけている。	○	『その人らしい尊厳とは何か?』を年間目標として、毎月の月目標を定めスタッフ間との理念共有と啓発を試行している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所前の地域住民への説明会では、参加された住民の方には認知症への理解はそれなりに得られた感じている。 家族来訪時の情報交換時や家族会では理念・方針について理解を得られるよう話している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩、買い物で挨拶を交わしたり、近隣の保育園の散歩時に園児と声を掛け合ったり、町内会に加入して回覧板等による情報も得ているが、イベント等への誘いには、まだ反応は見られない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、自治総会への出席、地域行事への積極的な参加、運営推進会議の定期的な開催等、出来る限り交流する場を作るようにしている。	○	今年度は自治会の組長なので地域住民との交流を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアや実習生など、要請は受け入れたいと思っているが、まだ実績は無い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を参考にして、スタッフ間で話し合い改善をした。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域活動が活発であり、意見、質問等は参考になる事が多い為、活かされていると思う。が、マンネリ化が新たな課題である。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	名古屋市の介護アドバイザー研修生の受け入れはあるが、定期的な意見交換の場は無い。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	知識を得るの必要性は感じているが、まだスタッフ間で共有していない。	○	数年前に、研修で少し知識を得たが、具体的内容について忘れた事が多いので、再度学習して、必要とされる機会があれば少しでも役に立てる情報を提供したいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束はもちろん、薬、声かけの仕方により、拘束、虐待にもなりえる事をスタッフ間の共通認識とする為、ミーティング等で議題にしている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>トラブルを避ける為、より一層の家族との協同ケアの視点からも、過去の事例より、事前に理解を得ておいた方が良いと思われる事柄については重点的に伝えていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>家族との情報交換は、入居者の穏やかな生活の確保に大きな意味を持つ事から、今後とも力を入れていきたい課題である為、方法は常に再考していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>今後、家族会に外部の有識者の参加を要請し、当ホームの関係者は席をはずした処で、要望、不満、苦情等を気軽に話せる場を設け、後日情報提供してもらうことによる、質の向上に努めたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>スタッフへのアンケートに取り組みたいと思う。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>入居者の季節による生活パターンに合わせたシフト組みをしている。スタッフ急病の時は”お互い様”の気持ちで対応しあえる環境作りをしたいが、慢性的な人材不足により柔軟性に乏しい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他の階からのスタッフ移動に対しては、常日頃それなりの関わりもある為、大きい影響は無いと思われるが、離職後のスタッフ補充が思うようにできない為(募集しても希望者がいない)、新スタッフへの負担が大きく、入居者にも影響があると思われる。	○	離職率の軽減の為、新スタッフへのバックアップを強化したい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新スタッフには最初に、当ホームの理念、方針を理解してもらう為、管理者から1～2日をかけて伝えることにより、互いに研修できる。 内外の研修に参加して、情報はミーティング等で発表、実習して共有し、スタッフ間のスキルアップに繋げている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入して、研修等に参加し交流を持ったり、運営推進会議は、他のグループホームの管理者と互いに委員となり出席して連携を図っている。	○	他のグループホームとのスタッフ交換研修をしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は確保し、個別の部屋となっているスタッフルーム、ロッカールームがあり、ストレス軽減になっている。管理者、リーダーはスタッフの状況把握に努め、不満、不安に対して解消するべく対応を相談し心がけ、運営者にも常に報告している。 又、定期的な個別面談により発言の機会を持っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフがやりがいを持って仕事ができるように、将来に目的が持てるように、前向きな考え方を示している。資格取得には積極的に支援する。努力しているスタッフは評価されている。又、定期的な自己評価により個々にあった支援の対策としている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は家族から情報収集を行い本人の性格、生き方、状況等を捉えるようにして、家族を交えた関わりの中で数日間を過ごしてもらい、入居者の心情を踏まえた上で家族との距離を取って行くように進めている。	○ 入居時の家族からの情報収集を強化する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の見学の為の来訪時より、家族の思いを真剣に受け止め、グループホームに対して過小の評価も、過大な期待もされないように、事実をそのまま受け入れていただく為に十分な話し合いの場を持っている。	○ 今後は、管理者のみならず、リーダーや計画作成も同席して、家族の思いを受け入れた支援を目指す。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、当ホームへの入居のみならず、被援助者の必要としているサービスを見極め、話し合うようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が環境の変化による心身の影響を最小限にする為、入居時は家族と共に過ごしていただき、可能であれば家族にも宿泊してもらい、徐々に受け入れられる環境作りに積極的に取り組んでいる。又、数日間を通いで過ごしてもらいその後、入居とする方法も受け入れている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であろうが、人生の大先輩として接し、出来なくなつた事をお手伝いする共同生活と捉える方針の共通認識を持ち、残存能力、潜在能力の引き出しに努めているかを常に確認しあっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の穏やかな生活は、当ホームと家族の相互理解と協力による支援でなければ築けないとの観点から、電話や来訪時には情報交換をすることを慣例としている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪頻度の少ない家族に対しては、電話連絡にて情報提供したり、来訪を促したりして、より良い関係作りのお手伝いをしている。	○	家族と入居者本人の意向が違う場合の歩み寄りの為、関係が拗れないように注意しながら、入居者の気持ちの代弁者となる努力をする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活の継続の為にも、友人、親類等がいつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気作りや、いつでも一緒に外出できる事を理解してもらい、豊かな時間を過ごしていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活ゆえの人間関係は当たり前にあるので、入居者同士の相性も含め、気の合う仲間との関係がより良い日常生活の鍵となる事の重要性を認識し、ミーティング等でスタッフ間の情報の共有化をして、同じ視点での支援を目指している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までの退去者は2名であり、うち2名は身体機能低下となり入院、死亡、あと1名は在宅生活に戻られたが、近隣ではない為その様な配慮はしていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在に至るまでのそれぞれの生き方を尊重し、それまでの生活が継続出来るように、本人、又は家族等に日々関わる中で、傾聴、共感する事で、思いを表出できる環境作りにより、意向を引き出し思いに添えるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は家族から情報収集を行い本人の性格、生き方、状況等を捉えるようにしているが、入居後の心身の状況に伴う変化もあり、再確認の為、センター方式のアセスメントシートを利用して、再度、家族から生活歴の情報収集をしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	収集した情報、日々の生活上での様子などから、それぞれの入居者の生活パターン、特徴、取り組む内容による意欲の有無等を注意深く洞察し、残存能力と照らし合わせた上での方向性を家族、スタッフで意見交換して決めている。	○ 入居者本人の意向と、残存能力、認知症進行の低下への取り組みという視点から、スタッフの意識付けによる洞察力強化を目指したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフが入居者の担当をもち、日常生活上での関わりの中で、本人の思いや希望、不安、不満などを聴き取ったり、感じたりした事を書き留めて得た情報を基に、毎月のミーティングやケアカンファレンスで意見交換し、計画作成担当者がプランを立てている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフが入居者の担当を持ち、毎日の業務上での気付きや、発見は日常的にその都度、計画作成者に報告があり、その情報も含めて毎月のケアカンファレンスで、プランについてスタッフ全員で話し合い、評価をし、変更点、新たな目標・課題に対するの援助の視点・方向性を、見出している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は毎日、個別記録を記入する時に確認する方法をとっており、又、介護計画書は既存のプランの評価を書面上で明記し、家族にも提示している。	○	ケアプランに沿って援助がなされるべきであるとの重要性を、スタッフが再認識するように働きかけを強化し、的確な個別記録が提示できるようになる事により、尚、一層のニーズの引き出しに持っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時には、24時間連絡が取れる認知症を充分理解している提携医師が指示、又は往診にて対応している。 本人が希望されれば急な家族等との外出、外泊は自由であるし、いつでも家族が宿泊出来るように寝具等は準備している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域催事への参加を積極的に行っている事で、地域からの認識は多少出来てきているが、協力体制までには至っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の集まりや食事会に定期的に参加するなど、社会資源の活用は出来る限り積極的に取り入れているが、他のケアマネジャーや、一部のグループホーム以外のサービス事業者との連携は無い。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括センターとの連携はとれていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前にも増して、柔軟に本人、家族の意向に沿ったかかりつけ医の定期的な受診(内科・眼科・耳鼻科)で適切な医療を受けている。定期受診以外の受診はかかりつけ医と連携がある医療機関で対応し、要望に応じて歯科往診も行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に理解あるかかりつけ医と提携をしている入居者が大半でありスタッフからの情報提供も定期的に行っている。	○	今後、認知症の進行により必要性を感じた場合は、メンタルヘルスケアの受診も考慮していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医と密接な関係にある訪問看護ステーションとの契約により、定期的な来訪で身体面の状況把握に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院となった場合は、積極的に情報提供、収集はしている。骨折等で入院され、リハビリはOT・PTとも相談し、日常生活がリハビリと捉えられる時期には、家族の意向を踏まえ、積極的に受け入れている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだその様なケースはないが、ターミナルケアを目指しているので、スタッフの技術、知識向上に意識を持ち、家族との話し合いにより医療関係者と連携しながら対応していきたい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだその様なケースはないので具体的なイメージは掴めていないが、終末期においては医療処置、医療管理が日常的に必要な場合は対応が困難であると家族には了解を得ているが、かかりつけ医や訪問看護ステーション、家族の協力を得ながら取り組みたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まだその様なケースはない。	○	なるべく今までの生活が継続できるように、情報提供は出来るだけ行いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	『尊厳』を理念に掲げ、常時スタッフの見える場所に貼ったり、研修への参加、意見交換により自覚に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出願望は止めずできる限り同行し、飲み物、入浴時間等、常に本人が決める環境を作っている。	○	分かりにくい事柄に対しての支援方法を意見交換で共有する事を重視したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の設定はあるが、参加、不参加は自由であり強制するものではないので、希望があれば出来る限り添うようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と相談し、家族と行きつけの店、又は近隣の理解ある理容室で対応している。	○	身体機能の低下により、移動が困難な方の為に訪問理容の導入を考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、後片付けは入居者と一緒に行い、立位の難しい方には座って出来るした処理等を頼んでいる。	○	食に関わる事への参加は受け入れられやすいので、可能な限り続けたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各入居者の好みを把握して提供し、選択出来る状況作りに努めている。お酒は家族来訪時に楽しまれている方もいるが、タバコの希望者はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を決めての誘導や、さりげないパッド確認、尿意、便意のある時の行動パターンを掴み排泄の失敗を感じさせない介助、見守りに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者同士で入浴の順番を決めてもらっている。入浴を希望されない方には足浴で対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の散歩、軽作業、レクへの参加などで適度な運動を促し、就寝前の温牛乳、好みの飲み物でリラックスしてもらい、夜間の安眠に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族、スタッフから得た情報を活かし、レクリエーションに取り入れたりしている。	○	入居者担当に、本人の興味のあるものを見出してもらうように働きかけたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人希望により、家族と相談の上、自分の居室で金銭管理をし、希望時には買い物に同行して菓子、日用品を買ってもらっている。		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	散歩、買い物同行は日常的に行い、毎月数回の外食や外出を取り入れている。		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	遠方等スタッフ対応が困難な場所への外出希望は、家族に相談して対応を考慮してもらっている。		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	手紙は希望時に出すことは自由であり、電話はいつでもかけられるようリビングに置いてある。		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	家族の来訪が安定につながる事が多いので、いつでも来訪しやすいように、重点的に対応している。入居者の家族への会いたい思いは常に代弁している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	緊急やむをえない場合以外は身体拘束禁止と理解している。	○	今後もミーティング等で『言葉による拘束など』具体的な例を挙げてスキルアップしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の同意を得て、日中は施錠せず、夜間のみ施錠している。	○	単独外出されそうな時はさりげなく同行して、本人の希望に添うようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングから全体が把握出来易い構造になっており、常時スタッフがいるようにしている。夜間は小まめに安否確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは眼に触れないようにしているが、残存能力活用の場合はスタッフが付き添い安全確保に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	建物内の整頓、服薬時の誤薬防止対策、ヒヤリハットの共有など取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル、書籍があるが、すべてのスタッフが対応できるとはいえない。	○	定期的に勉強会を開きスタッフのレベルアップに努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練をしていたが、スタッフ不足により滞っている。地域の協力体制は今のところはない。	○	もう一度定期的な避難訓練をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	来訪時に家族と起こりうるリスクについて話し合っている。	○	尚一層の情報共有化に努めたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを定期的、必要に応じ日に数回行い、入浴時の皮膚確認等で変化に気付き、かかりつけ医、看護師への支持を得て、口頭又は文章でスタッフ間で共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対するスタッフ担当者があり、各入居者の処方薬が分かるように整理して、薬の効果についてスタッフで情報交換してかかりつけ医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消となる食材を積極的に取り入れ、水分補給、腹部マッサージを促し、自然排便を工夫している。便秘気味の方には排便確認表で把握している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの必要性は認識しているが徹底されていない。	○	重要性を認識し、再度取り組んで生きたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に、食事量、水分量を記入してスタッフ間で認識できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	疥癬の発症後より予防、早期発見の意識が高まり徹底されていたが、スタッフの移動もあり、意識が希薄になって来ている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン、まな板等のハイター殺菌、食器乾燥機による高熱処理で対処している。食材担当者出勤時に鮮度のチェックを行っている。	○	重要性を認識し、徹底するように取組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、スロープには鉢植えや縁台を置き、暖かい雰囲気を出し、通りに面した畑には季節の野菜作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ、洗面所など花や人形などで温かみのある空間作りを心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者が他の入居者の居室やリビングのソファで歓談したりしてくつろげる空間作りを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険でない限り、愛着のある物は自由に持ち込んでいただいて、少しでも馴染みの環境を提供することを提案している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングは適宜、居室は掃除の時間を利用して換気を行い、入居者の様子を観察しながら温湿度計によりチェックしてエアコン、加湿器で空調管理をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、リビング等は手すりを設置し、出来る限り自立歩行が出来る環境づくりをしている。視力が衰えた方には手すりに色を付ける事により自立を促している。	○	歩行器利用者の為にも安全な空間作りを意識していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの分かる力を理解し、その方に合ったサポートを心がけている。		『分かる』ことが意欲の引き出しと考える為、常にスタッフが問題意識を持ち分かりやすい環境づくりに取り組みたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の畑には自由に出入りできるようになっていて、水遣り、手入れ、収穫の楽しみを感じてもらっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日を充実した生活で過ごしていただけるように、自分でできる事は当たり前のようにする事が抵抗感なく、役割が持てるようになってきた。毎日のレクリエーション（抹茶、創作、百人一首、生け花、書道など）で脳の活性化を図り、散歩、畑仕事、体操で身体機能の維持に努めている。